

令和7年度 青梅市立第五小学校 学力向上推進プラン

青梅市立第五小学校

校長 松井 良

1. 学力調査等に基づいた本校の実態

令和6年度末学力診断テスト(CDT)の実施結果 【数値は全国平均との比較】

教科	国 語			算 数				
領域	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	数と計算	図形	測定	変化と 関係	データの 活用
3年	-11.0	-16.9	-16.7	-11.2	-18.2	-11.9	—	-1.9
4年	-6.1	-12.8	-10.5	-14.3	-19.3	—	—	-9.0
5年	-12.8	-20.1	-29.8	-26.9	-13.4	—	-16.0	-21.4
6年	-7.4	-5.7	-7.1	-5.4	-7.9	—	-10.7	-10.9
全体	-8.2	-14.0	-18.5	-18.7	-18.9	-14.6	-11.3	-22.5

<国語>

「書くこと」と「読むこと」に課題がある。書いたことの中身が、目的に整合した内容になっているか、どのような相手を想定して書いたものかなど、書き表す技術とともに、求められていることに正対した書き方ができるような指導が求められる。読み取りにおいても、何を読み取るのか、どの叙述を根拠にするのかなど、目的に合った読み方ができるような指導が求められる。

<算数>

「数と計算」と「図形」に課題がある。四則計算の意味を正しく理解し、適切に立式できる力や、筆算などの計算技術の定着などが求められる。基本図形の定義や求積の考え方など、單元ごとに身に付ける基本事項の定着を確実に図る指導が求められる。

2. 一人一台のタブレット型端末の活用

- ・学習コンテンツ（まなびポケット・みらいシード等）を既習事項の定着場面や、家庭学習場面に積極的に活用させ、「個別最適な学び」の実現を図る。
- ・話し合い活動に意見集約ソフト等を活用し、多様な考えに触れる機会を設定することで、多面的・多角的に考える力を育む。
- ・共有ファイルを活用しグループでプレゼンテーションスライドを作成する等の活動を通して、「協働的な学び」の実現を図る。

3. 具体的な授業改善の方針及び対応策等

- ・年間3回の自己申告面接に伴う授業観察、年間6回の校内研究の検証授業等を活用し、管理職から授業者それぞれの「強み」と「課題」を提示し、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組ませる。
- ・学校経営方針として保護者にも示した、各学期の重点取組目標（1学期「自分の強みを自覚する」、2学期「友達の強みを認める」、3学期「強みを貢献につなげる」）を各授業で実践していく場面を具体的に設定させ、目指す学校像「一人一人が強みを発揮し、協働的に学ぶ学校」の実現を図る。
- ・校外での研鑽の機会に積極的に参加させる。東京都教職員研修センター主催の専門性向上研修や指導教諭による模範授業の参観などを活用し、教職員個々の専門性を高める。